



# 長崎県警察本部

写真に見る  
115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 4 □

正門に「警察本部」の看板が見える。明治22（1889）年、外浦町（旧県庁第3別館元長崎署前の現路上）に新築された長崎県警察本部の建物である。前身となる長崎県警保局は、明治7年に長崎県庁内に創設され、明治5（1872）年、

ぎ町の長崎警備を担う警察局がこの場所に置かれた。これは明治9年に東浜町（現浜屋の場所）に長崎警察署として移転し、大正12（1923）年には江戸町の県庁横に移転する。遷卒と呼ばれた警官は明治8年に巡查となった。県警本部の建築スタイルは県庁や交親館と同じく天井が高く、観音開きの洋風窓がついている。さらに二重の掃き出しテラスや半丸窓の玄関、重層的な日本風飾り屋根が設けられ、一段と豪華である。外にも洋風の鉄フェンスをめぐるせ、屋根の軒下には菊の紋章が掲げられている。県の警察庁舎も明治政府の権力のシンボルであった。明治22年建設当時の図面が残されている。これによれば建坪は80、昇降口は6坪7台の大きさである。間取りは2階のテラスにつながる部屋が警部長室、その左が応接室、右が警務課である。廊下を挟み奥は、左から秘密室、応接所、警部同補控室、保安課の各部屋が並んでいた。1階は玄関の左が人民応接室、右が会議室、廊下を挟んで左から巡查控所・石版室、宿直室、訊問所、主計課の各部屋であった。すべての部屋には大きな窓がついている。右の外階段は小使部屋と便所、炭小屋につながっていた。ここに拘留施設はない。大正8（09）年の長崎市街図では、ここは警察部・長崎県巡查養成所に変わり、右横に新しく県警察部長官舎が設けられている。（長崎外国語大・新長崎学研究センター長）

## 明治政府権力の象徴

週1回掲載します